

豊中市幼児教育サポートセンター通信

すくすくまめの木

『すくすくまめの木』では、就学前施設職員の方に向けて、いろいろな情報の発信をしていきます。

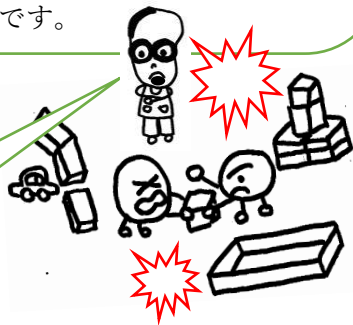


『教育保育環境ガイドライン』をまめに使う

『豊中市幼児教育保育ガイドライン』は、公立園と私立・民間園が一緒に保育の質を確保していこうと作りあげ共有しているものです。使うに当たって「評価が高くないとダメ?」「点数で保育を図るということ?」と誤ってしまいがちですが、そういうことではなく、どこをどう改善するのかを考える物差しだと考えてください。「評価を通して、保育の課題が見えてきた」との声もあります。これは、改善が子どもの姿の変化に結びついているからです。

～園環境あるある①

みんなで
つかいなさい!



3歳児クラス、いつも子ども同士のけんかが絶えず、けんかの傷や噛みつきへの対応が続いて困っているクラスの事例です。

先生は、原因が思いつかず「積み木はみんなで使いなさい」という声掛けや「ごめんね」「いいよ」だけの一時的解決で必死です。サポートセンターにアドバイザーの派遣を依頼すると、こんな助言がありました。

たとえば、ガイドラインの「積み木」の項目をチェックしてみたらどう?

段階	評価項目	達成	未達成
1	1-1 自由に使える積み木がない		
	1-2 保育者は、積み木で遊んでいる子どもに関心を持ったり、楽しさを共感したりしていない		
評価項目			
2	2-1 自由に使える積み木がある		
	2-2 友達と協力して大きなものが作れる場所や時間がある		
	2-3 保育者は、友達とかわることや、工夫して作ることに共感したり肯定的に受け止めたりしている		
3	3-1 自由に使える色々な大きさの積み木が十分ある		
	3-2 作ったものを継続して使えたり、飾ったりできる		
	3-3 保育者は、イメージが膨らんだり、工夫したりできるような援助をしている		
4	4-1 大きさや素材の違う積み木が、十分にあり、大きなものを作る場所が確保されている		
	4-2 じっくり考えたり、工夫したりすることができる場所や時間がある		

2022年9月 Vol.1
発行：豊中市幼児教育サポートセンター



さて、このクラスの場合、その「段階1」項目では、どんな確認ができるのでしょうか。

◇1-1 自由に使える積み木がない

⇒ないことはないのですがこれは「いいえ」に

☑が入りました。次の項目に進みましょう。

◇1-2 保育者は、積み木で遊んでいる子どもに関心を持ったり、楽しさを共感したりしていない

⇒これは、「どう楽しんでいるかを観察できずに共感もしてないから解決できていないのだろう」と考えるなら☑「はい」となるでしょう。そんなことはないよと思うなら☑「いいえ」と答えるかもしれません。

さあ、解決の糸口を探しにいきましょう!

更に「段階2」の項目を見ていくと、

◇(2-2)協力して作れる場所や時間がある

◇(3-1)自由に使えるいろいろな大きさの積み木が十分ある

◇(3-3)保育者は、イメージが膨らんだり工夫したりできるような援助をしている
などトラブルの解決につながるヒントがたくさん出ていることに気づきました。

これらの項目を評価していくうちに、「積み木が流行り始め、もっと積み上げたいと思う意欲の高まりに反して十分な数がないがために、取り合いの連鎖が発生してしまっていたこと」や「高くなった積み木が建物に見えて、その間に車を走らそうとした子が、積む子の足元に接触したこと」などがわかりました。

その後、園の先輩のアドバイスで、隣のクラスや倉庫で眠っていた積み木を借りてきて「種類や量を増やす」ことにより、更にダイナミックな積み木の建物が立ち並び、同時に「道路を作りたい子」の思いを他の子につなぐ援助をしたことで街づくりへと発展しました。

バラバラでけんかし合っていたクラスが、友達と協力し合うほど遊びが豊かになっていったのです。



こんな本あります！

////////////////////// REFERENCE BOOKS

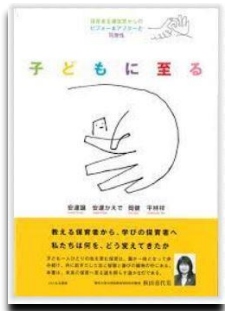
サポセン文庫 サポートセンターでは、さまざまな図書を備えています。有効にご利用ください。

////////////////////// REFERENCE BOOKS

😊「**研修で子ども理解のワークをしたいのですが、参考になる本を教えてください**」

『子どもに至る』

安達譲・安達かえで・岡健・平林祥/ひとなる書房



37ページ、「保育者は良くも悪くも子どもを自分の色眼鏡で見ることしかできません」と、書き出しのスパイスが効いている。

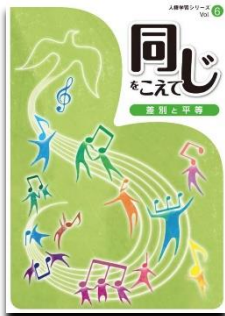
そこで「ひとりの子どもを理解する」ためにマインドマップを使う方法について述べられている。

マインドマップをもとに子ども理解を進め、やがて必要な手立てを見つけ出す。

😊「**人権研修で差別意識をテーマにワークをしたいのですが、参考図書を紹介してください**」

『同じをこえて(差別と平等)』

財団法人大阪府人権協会



52ページ、「差別は「する」もの…?」と、見出しがいきなり問いかけてくる。

「家賃が安いから、その地域に住むのを避ける」などの多様な状況

カードをコピーしてワークで使える。

「差別」を個人の行為としてとらえるのではなく、社会の構造としてとらえる思考力を高める。

つぶやきを味わおう

「言ってることわかるで」

言葉は増えてきたが、発音が不明瞭で伝わりにくい、れおちゃん。

毎月の異年齢交流日、れおちゃんが名前を言おうとすると…

りくと「どうせ れおちゃん
しゃべられへんでー」
は な「しゃべれるで。いつも
しゃべってるしなー！」

れおちゃんが はなちゃんにハグをする。

たいが「たいがも れおちゃんの
言ってることわかるで」

いつも れおちゃんのことが好きと言ってる はなちゃんと たいがちゃんが れおちゃんの味方であり、同じクラスの仲間として自然に出た言葉です。

たいがちゃんが言った「言ってることわかるで」は、単純に『聞き取れるで』ということではないでしょう。れおちゃんの言葉に耳を傾けて聞き取ろうとすること、聞き取った言葉から推し量って理解すること、伝えようとする気持ちを感じ取ろうとすること…。

長く一緒に生活することで「言ってることがわかる」ようになった たいがちゃんとはなちゃん。共に育つ生活は豊かな心や非認知の力を形成し、クラスを安心できる場所に変えていきます。

まあでもそんなことより、はなちゃんが先に「わかるで」と言って れおちゃんにハグされたことへの、たいがちゃんの嫉妬を感じてクスッと笑ってしまいましたんか。

●豊中市では、全ての子どもに豊かな感性を育て、お互いを大切にする心を培うことをめざす人権教育・保育のもと、平成4年から市内各園でこどものつぶやきを採取し、その一部を毎年市役所ロビーで公開するとともに、ホームページでも紹介しています。

いつもと違う自分に気づく…☆そもそもストレスとは、外部から刺激を受けたときに生じる緊張状態のことです。日常の中で起こる様々な変化が、ストレスの原因になるのです。辛い出来事でも喜ばしい出来事でも、変化であり刺激ですから、実はストレスの原因になります。『疲れたぁ』の後には息抜きをして脳を休めましょう。